



第30回

斎王まつり

三重県明和町

千三百年の祈り

平成24年 **2**月 **2**日(土) (雨天の場合中止)

前夜祭 17時～21時

特別ゲスト/矢吹紫帆・矢中鷹光
開会式・子ども群行・斎王他出演者披露

斎王市 15時～21時
斎宮歴史博物館会場

6月 **3**日(日) (雨天の場合中止)

禊の儀・斎王群行 13時～15時

上園芝生広場～斎宮歴史博物館

斎王市
アトラクション 10時～15時

特別ゲスト/相可高校吹奏楽部
剣山啓介(二胡奏者)

フォトコンテスト作品募集

主催/斎王まつり実行委員会
<http://saioh.jp>



配役

齋王 さいおう



松本 夢歩
(京田辺市)

子供齋王



高山 華奈
(津市 南が丘小)

近衛使 このえつかい



高安 富貴
(西宮市)

舞人 まいびと



西村 優希
(明和町)



段 会艶
(明和町)



徐 娟
(明和町)



張 凱
(明和町)

検非違使 けびいし

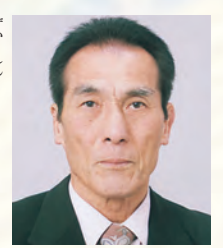


中西 功
(玉城町)



高仲 肇
(彦根市)

隨身 ずびん



村居 忠一
(松阪市)



早川 哲生
(伊勢市)



岡森 義貴
(大阪市)

女別当 にょべつどう



大井真美
(京都市)

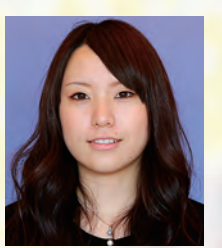
内侍 ないし



小林 美紀
(明和町)



中西 里菜
(玉城町)



北橋 夕里佳
(伊勢市)



水野 由加里
(津市)

隨身 ずびん



山下 勇泰
(伊勢市)

信従 べいじゆう

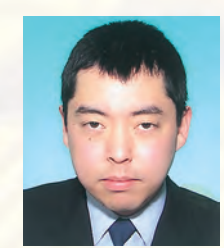


中村 幸美
(明和町)



河村 菜美
(明和町)

風流傘 ふうりゅうがさ



大野 彰久
(津市)



吉田 尚史
(大津市)

命婦 めいぶ



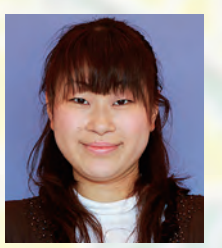
西尾 恵美
(明和町)



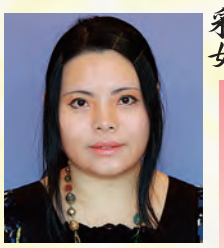
稲垣 明香
(春日井市)



山本 由佳
(志摩市)



三橋 絵理子
(伊勢市)



山本 菜岐穂
(大阪市)

風流傘 ふうりゅうがさ



生川 龍起
(松阪市)

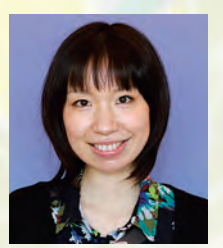


川北 康介
(志摩市)

采女 うねめ



服部 友美
(伊勢市)



辻井 珠美
(伊勢市)



坂谷 有絵
(伊勢市)



三好 美香
(豊橋市)



桑原 香
(熊野市)

與丁 よちよう



奥田 勲
(四日市市)



鈴木 直孝
(四日市市)

女孺 にょじゆう



北出 理華
(長久手市)



山本 美香
(川越町)



正村 芹菜
(岐阜市)



童・童女 出演者 (順不同)



水千

水千

第三十回 斎王まつりを迎えて

第三十回という節目の年を迎え、実行委員一同新たな気持ちで準備に取りかかってまいりました。前夜祭には第二十回以来、十年ぶりに「矢吹紫帆」さんを特別ゲストにお迎えしました。矢吹さんは、斎王まつりをイメージした曲などいくつか作曲してくださり、今回も「斎王まつり」のための特別構成となっております。

また、六月三日(日)の当日は第二弾特別ゲストとして「相可高校吹奏楽部」のみなさんと剣山啓介(二胡演奏)さんをお迎えしております。

相可高校吹奏楽部は、県内でもトップクラスの吹奏楽部です。昨年は三重県吹奏楽コンクールでみごと金賞を受賞し、マーチングコンテストでも県代表として東海大会などに出場している実力派の吹奏楽部です。剣山さんの奏でる二胡演奏は、まつり会場全体を、平安時代にタイムスリップしたかのようなムードにしてまいります。

まるで斎宮寮の女官たちが、素焼の土器に「ぬるをわか」と習字の練習をしている様子が目に浮かぶようです。

発掘調査では平成二十二年度に行われた斎宮跡第171次調査において、ひらがなで書かれた「いろは歌」としては日本最古となる墨書土器が出土していたことが判明しました。

本年は第三十回にふさわしい内容でみなさまに楽しんで頂きます。どうぞご期待下さい。

斎王まつり実行委員会 広報班

6/3(日) (雨天中止) 6/2(土) (雨天中止)

斎王市

15:00 ~ 21:00

前夜祭

17:00 ~ 21:00

斎宮歴史博物館会場
子ども群行
開会式

特別ゲスト

矢吹紫帆・矢中鷹光
斎王他出演者紹介

斎王市

アトラクション

10:00 ~ 15:00

禊の儀・出発式

13:00 ~ 13:30

斎王群行

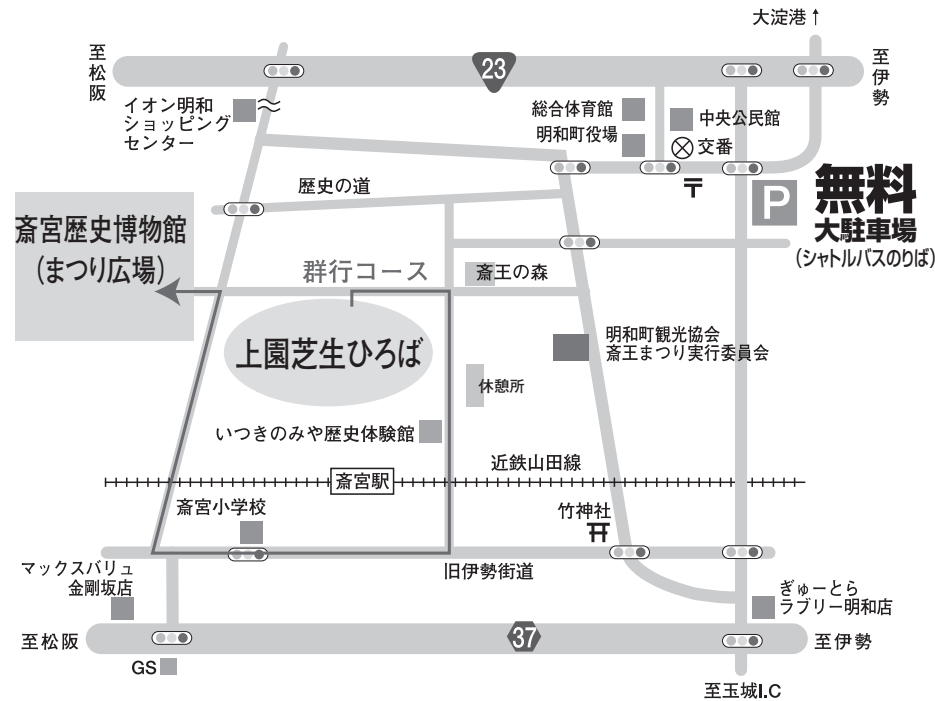
13:45 ~

社頭の儀

14:45 ~ 15:00

もくじ

- 斎王まつり配役..... 2
- 斎王まつり童・童女出演者..... 4
- 斎宮の歴史語り(その六)..... 6
- 斎宮跡の発掘調査..... 9
- 斎宮内院と竹神社..... 11
- いつきのみや歴史体験館..... 13
- 斎王まつりの沿革..... 14
- 図書の紹介/実行委員会組織体制... 26
- 斎王まつり実行委員会活動..... 27
- 群行衣裳..... 28
- フォトコンテスト..... 30
- 第29回斎王まつりの思い出... 32



斎王を ひもとく

(その六)

井上斎王 (前編)

ふるさとの語り部 山川 充造



七一〇年、都は一六年間続いた飛鳥・藤原京から奈良への遷都が決まり、工事着工から僅か一年半程で平城宮に移された。

中臣氏から分枝した藤原家は既に国家権力に及ぶ力を発揮するようになり、七一六年頃には藤原不比等の娘・安宿媛(光明子)が入内していた。

七一七年、井上内親王は首皇太子(のちの聖武天皇)の第一王女として出生、母は夫人の畠犬養宿禰広刀自であった。

聖武天皇と光明子の間にも阿倍内

ばつが続き、翌年には大飢饉が起こり、凶作は三年も続き、翌々年四月には近畿・東海にわたって大地震が襲い、家屋倒壊、山崩れ、河川の氾濫など未曾有の大災害があったことを史料の中に見ることが出来る。斎宮寮も大きな被害があったと思われ、特別に見舞い(寮米)が贈られている。

地震による民衆が混乱しているなかに、九州の太宰府から始まった疱瘡と恐れられた天然痘が流行し始め、大勢の死者が出るようになり、七三七年には不比等の後を継いで政治の中枢にあった藤原四兄弟(武智麻呂、房前、宇合、麻呂)が次々に天然痘に罹って死んでいった。翌年には未婚の安倍内親王に立太子式の儀が行われ、前代未聞の皇女の皇太子の出現であった。

皇太子から見て母違いの弟にあたる安積親王は、姉・井上内親王が斎王として旅立った後に生まれ、すでに十一歳になっていた。

親王(後の孝謙・称徳天皇)が生まれた。

七二〇年、権謀術策に長けた不比等が六十二歳で逝去。七二一年、井上皇女が五歳で斎王に卜定され、初瀬の北池辺宮での初斎院修業の六年間はあまりに長く、父・天皇が即位した二年後にやっと斎宮への下向であった。時に、井上皇女は光明子の臨月に近いお腹を眼に捉えながら斎宮への出発であった。

奈良の都から斎宮への所要日程も道筋も、これより十四年後の七四〇

普通であれば、順序として安積親王が皇太子になるべき筈ではなかったか。伊勢に在って折々に伝わってくる都の母・広刀自や、未だ逢ったこともない弟・安積親王に対する藤原氏一族の強引な仕打ちを思う井上斎王は、遠く斎宮の地から肉親への想いが深まる日々であった。

七四〇年十月、天皇は思い立ったように、伊勢・岐阜・滋賀の頓宮を約五十日かけて回った末に、京の都の南にあった恭仁宮に到着し、平城京は棄てられた。

約百年間平城京として栄えた建造物は、四年かかりで移築され、移築が終わった正月、天皇の難波宮行幸に従っていた安積親王は、脚気という足の病が起こり都へ引き返したが、二日後に十七歳の若さで急逝された。留守を預かっていた藤原仲麻呂による毒殺説が歴史に残る。

遷都、行幸を繰り返した天皇も五年ぶりに平城京に戻り、何のための遷都であったのか未だ謎の残る歴

年一〇月、聖武天皇が行幸された道筋から判断すると、現在の国道一六五号線、青山を経由、川口を経て一志町から斎宮への道順が想像される。

井上斎王の下向を待っていたように安宿媛に基親王が生まれ、生後二か月の新生児に立太子式が行われ、常識では考えられない皇太子の出現であった。

しかし、藤原一族の期待の重さに耐えかねてか、皇太子は翌年の九月に薨去されてしまい、七二八年一〇月、偶然にも斎王の母・広刀自には安積親王が生まれた。

藤原氏にとっては、朝廷との壁を取り除く努力が裏目ばかりになるような結果が続いてきた。

翌年の五月、夫人の地位にあり、同じように天皇の子を成し、藤原家の血を濃く引く安宿媛と、犬養という名門の血を引く広刀自の宿命的なライバルの内から、ついに安宿媛に立后が決まり、民間からは異例の皇

史である。

七四六年、井上斎王は弟・安積親王の薨去により任務を解かれ、竹の都と呼ばれていた斎宮に斎王として神に仕えた十九年間の青春は、すでに三十歳を迎えようとしていた。

しかし、その後にも苛烈な運命が待っていた。

かねてから病床にあった天皇は、皇位を三十二歳になる未婚の皇女・阿倍皇太子に譲位し、女性の孝謙天皇が誕生した。

七五二年には九年の歳月をかけて鑄造された奈良の大仏の開眼供養が盛大に行われ、日本の仏教にも世界からの参会者が続いた。

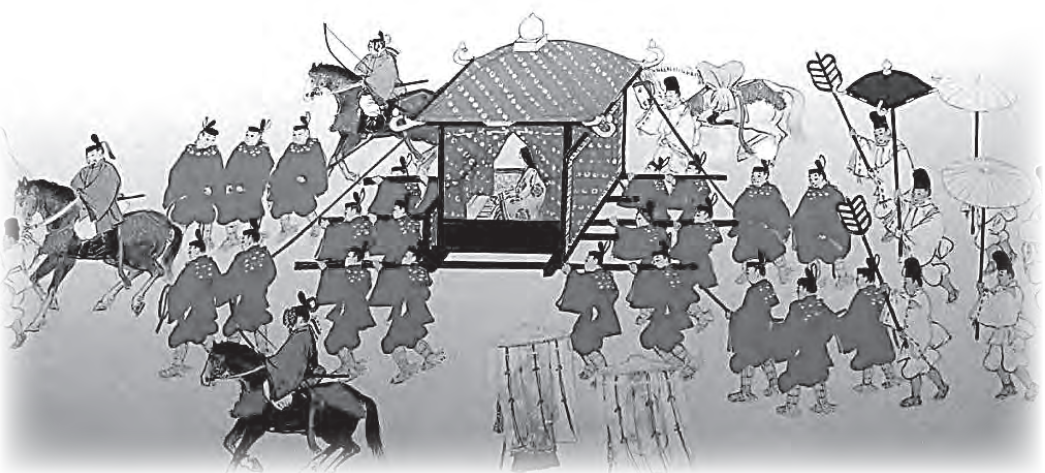
前篇終了

参考史料

斎宮志 山中智恵子

語り部の竹の斎王語り

山川修司



斎王の伊勢滞在期間は短くて二年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

*は女王(天皇の娘以外の皇族女性)
「」内は実在の確認できない斎王
○は斎宮に群行した斎王
△は斎宮に群行しなかった斎王

Table with 4 columns: 時代 (Era), 歴代斎王 (Historical Empress Dowager), 在任期間(年) (Tenure in years), 天皇 (Emperor), 西暦 (Gregorian Calendar), 歴史上のできごと (Historical Events). Rows include Empress Dowagers like 豊鍬入姫, 倭姫, 五百野, etc., and their reigns from the Asuka to the Heian periods.

平成23年度の 斎宮跡の発掘調査



平成23年度 史跡斎宮跡発掘調査区位置図

Table with 4 columns: 南北朝 (Nanpoku), 鎌倉 (Kamakura), 平安 (Heian), and 齋王 (Imperial Household Agency). Rows list names like 〇柔子, 〇権子, 〇照子, etc., along with their reign dates (e.g., 八九七〜九三〇), names of emperors (e.g., 醍醐, 朱雀), and historical events (e.g., 遣唐使廃止, 斎宮寮の失火).

御館区画の調査
御館区画は平安時代の方格地割の西部にあたり、斎宮寮の儀礼空間と考えられ、現在史跡整備が進められている柳原区画が位置します。
第一七二次調査は、御館区画の南西部で調査を行いました。この調査では、主に平安時代初頭から平安時代後期にかけての掘立柱建物二棟や土坑などの遺構を確認しました。このうち、調査区の中央部で確認した掘立柱建物は、柱を据えるために掘られた穴が一辺一メートルを超える大きさのもので、穴が重なっていることから何度か建て替えが行われたと考えられます。この他にも、調査区の南半部では多数の建物が重複して見つかったっており、頻繁に建物が建てられていた様子が窺えました。遺物は、

平成二十三年度は、史跡東部に広がる平安時代に造られた方格地割内で三か所の調査を行いました。「御館区画・牛葉東区画・下園東区画」でそれぞれ区画の性格や建物の配置などを確認するための調査を行いました。
御館区画は平安時代の方格地割の西部にあたり、斎宮寮の儀礼空間と考えられ、現在史跡整備が進められている柳原区画が位置します。
第一七二次調査は、御館区画の南西部で調査を行いました。この調査では、主に平安時代初頭から平安時代後期にかけての掘立柱建物二棟や土坑などの遺構を確認しました。このうち、調査区の中央部で確認した掘立柱建物は、柱を据えるために掘られた穴が一辺一メートルを超える大きさのもので、穴が重なっていることから何度か建て替えが行われたと考えられます。この他にも、調査区の南半部では多数の建物が重複して見つかったっており、頻繁に建物が建てられていた様子が窺えました。遺物は、

牛葉東区画の調査
牛葉東区画は、斎王の居所である内院が想定されている区画で、第一七五次調査区は、牛葉東区画の北東部、内院を囲む柵列の外側に位置しています。昨年度に調査を行った第一七一次調査の西隣に位置し、昨年度と同様に、平安時代後期から末期の溝を確認しました。この溝からは、多量の土師器皿が出土していますが、第一七一次調査の出土遺物の中に、ひらがな「いろは歌」墨書土器が見つかりました。牛葉東区画では、過去の調査でもひらがなを書いた墨書土器が見つっていますが、いろは歌と分かっていたのは初めてであり、発掘で見つかったものとしては日本最古のものです。また、溝の北側では、第一七一次調査で確認されていた、溝よりも古い時期の掘立柱建物一棟の続きも見つかりました。

牛葉東区画は、斎王の居所である内院が想定されている区画で、第一七五次調査区は、牛葉東区画の北東部、内院を囲む柵列の外側に位置しています。昨年度に調査を行った第一七一次調査の西隣に位置し、昨年度と同様に、平安時代後期から末期の溝を確認しました。この溝からは、多量の土師器皿が出土していますが、第一七一次調査の出土遺物の中に、ひらがな「いろは歌」墨書土器が見つかりました。牛葉東区画では、過去の調査でもひらがなを書いた墨書土器が見つっていますが、いろは歌と分かっていたのは初めてであり、発掘で見つかったものとしては日本最古のものです。また、溝の北側では、第一七一次調査で確認されていた、溝よりも古い時期の掘立柱建物一棟の続きも見つかりました。

下園東区画の調査



第172次調査区掘立柱建物(北から)



第173次調査区全景(北から)

唾壺・香炉、円面硯、土馬、製塩土器などがあります。

斎宮跡の公開

斎宮歴史博物館では、多くの方々に斎宮跡に親しんで頂けるようホームページなどによる情報発信や様々なイベントを行っています。斎宮跡発掘調査の最前線をお伝えする「現地説明会」や「成果報告会」、小中学生を対象とした「夏休み体験発掘」、一般の方々を対象とした「発掘調査体験ウィーク」も行っています。発掘調査期間中は、随時現場公開を行っておりますので、お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

(斎宮歴史博物館 技師 水谷豊)

斎宮歴史博物館ホームページ

<http://www.bunka.pref.mie.jp/saku/>



現地説明会風景



発掘体験ウィーク風景

斎宮内院と竹神社

斎宮内院と「ひらがな墨書土器」

近鉄斎宮駅を出て南に少し歩くと、明るい茶色に舗装された道とのT字路に出ます。ここを左に300メートルほど行った所にあるのが、竹神社の森です。

この道は江戸時代の伊勢街道で、竹神社の前まで来ると、古い町並みが一部残っており、当時の雰囲気を感じることができます。江戸時代後期の『伊勢参宮名所図会』にも、街道の側に森がある、という挿し絵を見ることができます。江戸時代の記録を見ると、この森は「旧地の森」と言われ、そこには「野々宮」と呼ばれる祠があったようです。斎宮の伝承地とし

ては、ここから西北にある「斎王の森」が有名ですが、この竹神社の森もまた、斎宮伝承地のひとつだったのです。

そして時は流れて昭和五十年(一九七五)、斎宮跡の発掘調査が始まって五年が経とうとしていた頃、竹神社の横で道路建設に先行した調査が行われました。その時に、大量の土師器(素焼きの土器)が発見され、その中には、ひらがなの書かれたものが混じっていたのです。しかし、その内容は解読できず、何のために書かれたのかはわからないまま。そして土器自体も、平安時代後期のものだった

ので、それほど大きな話題にはなりませんでした。

ところがその後、全国で墨書土器の情報が増加するにつれ、意外なことがわかってきました。土器に字を書く慣習は平安時代中期の十世紀頃に無くなっており、斎宮のように平安時代後期まで見られる遺跡は極めて珍しいのです。さらに、ひらがなを書いた土器となると、平安京を除くとほとんど事例がない、もつと貴重なものだったのです。

そして、竹神社北側を調査したことで、さらに興味深いことが判明しました。このあたりが、斎王が暮らしていた「内院」であった可能性が極めて高くなったのです。

こうして、ひらがなを書いた墨書土器は、全国的にも珍しい遺物で、斎宮の内院に関わる、という特徴がわかってきました。その間にも竹神社周辺からは、平安時代後期のひらがな墨書土器が出土しつづけていましたが、意味の解読できるものは全くなく、その用途は長く不明のままでした。

そんな状況下で、平成22年度の第171次調査で、竹神社北側から見つかったのが、いろは歌をひらがなで書いた墨書土器だったのです。

このいろは歌には、非常に面白い特徴があります。特に内面に書かれた「ぬるをわか」に顕著なのですが、一文字一文字を離して、きれいに書いているのです。そし

てその周辺では、一文字ずつ書かれた、あまり上手ではないひらがなを書いた墨書土器がかなり見つかっています。

これらの土器は、ひらがなの練習のために、紙の代わりに使われたのではないのでしょうか。上手いものも下手なものもあるのは、ほとんど習得した人もいれば、まだ初心者の人もあるからなのだと理解できます。とすれば、平安時代後期の齋宮の内院は、いろいろな人が読み書きの勉強をできる環境だったのでしょうか。

寛治元年（一〇八七）に善子内親王という齋王が卜定されました。年は十二才。時の帝の堀河天皇の異母姉妹、父は白河上皇です。そして同三年（一〇八九）の彼女の群行には、その母で承香殿女御と呼ばれた藤原道子が同道した

のです。

藤原道子は藤原道長の曾孫で、父は贈太政大臣藤原能長という身分の高い女性でした。その人が伊勢に下り、二十年近くに亘って齋宮に滞在していたのです。そして道子は能筆家として知られていました。道子は天永三年（一一二二）に、夫の白河上皇の六十才の祝いに、美しい装飾料紙「継ぎ紙」に写された三十六歌仙の歌集を献上しました。平安後期を代表する書道芸術として知られる『西本願寺本三十六人集』です。これは当時の最高級書家二十人に書写させたもので、彼女自身もその筆者の一人だったのです。

西本願寺本三十六人集の製作は、道子が齋宮から帰京してからのことでした。このようなセンスは、齋宮滞在中にも磨かれたことでしょう。その身辺には能筆の女官や女房もいたでしょうし、習字

を練習するムードが高まっていたことは想像するに難くありません。

齋宮には、多気郡、度会郡の有力者の娘が、女房として働きに來ていた形跡があります。当時、いくら有力者の娘でも、地方にいてすぐれた筆法を身に付けるのは至難の業だったはずで

す。とすれば、この時期の齋宮で働くことは、彼女らにとって、都の文化を身に付ける、女房教育を受ける千載一遇のチャンスだったと思われる

「いろは歌」はいわばそんな人のために、デキる女

性を養成するテキストとして、齋宮に伝えられたとも考えられるのです。

九百年ほど昔の少女たちの夢が、竹神社の内院には眠っているのかもしれないね。



竹神社

いつきのみや十五夜観月会

―平安の月見をしのぶ雅楽演奏会―

中秋の名月の夜、齋宮跡で開催する「いつきのみや十五夜観月会」は今年で十二回目を数えます。

寝殿造りの体験館を背景に雅楽の演奏と舞が披露され、その優雅な調べに耳を傾けながら中秋の名月を愛でるといふ、平安の王朝人たちの月見の宴をしのぶ雅な観月会です。

雅楽演奏会は、いつきのみや歴史体験館の龍笛講座生が龍笛のみならず、舞や歌の練習を重ねてきた成果を発表する場です。狩衣や舞人などの平安貴族の衣装で、雅楽舞の美鈴の会や齋宮雅楽会、ゲストのみなさんの協力を得て、見ごたえのある華やかな演奏会を披露してくれます。当初は館内でおこなっていましたが、年を重ねるごとに来場者が増え、より多くの方に楽しんでもらえるようにと、平成二十一年から体験館中庭に特設ステージを設けて野外に会場を広げました。



観月会のオープニング「観月の儀」には齋王まつりの齋王にご出演いただいています。龍笛講座生が演奏する越殿楽の楽の音とともに齋王が登場し、月に秋の収穫物と銀色に輝くススキをお供えます。日没を待って始まった儀式が進むにつれ、少しずつ夜に向かって闇を広げていきます。

あとは月のお出ましを待つばかりに和歌の披露、今様舞と、演目が続き、明るい月が寝殿造の建物のうえで輝く頃には、平安絵巻さながらの雅やかな観月の宴に酔いしれています。

―幻想的な二千本のそうそくの灯り―

いつきのみや十五夜観月会を彩るもうひとつの催しは、体験館に隣接する齋宮跡歴史ロマン広場に並べた約二千本のろうそくの灯かりです。

月の明かりとろうそくの灯かりが寝殿造りの建物を幻想的に照らし、広大な史跡の中で観月会を楽しむことができます。

観月の儀が始まる頃、雅楽の音を聞きながら、ろうそく一本一本にあかりを灯していきます。

一般参加者も募り、スタッフとともに、整然と並んだろうそくや、絵文字に配したろうそくに点灯していくと、たくさん灯かりの上に体験館が浮かんでいるようです。そして中秋の名月とともにその幻想的な姿を収めようと、カメラのシャッターを切る音があちこちで聞かれます。広場を散策しながらのお月見と、ろうそくのやさしい灯かりやランプアートの展示などの見学を楽しめる会場です。

また、併設の齋宮跡休憩所（いつき茶屋）では、観月会にあわせて「さいくう市」を開催し、地元の特産品やお団子などの販売、野点茶席をなど、ゆっくりとお月見の楽しみを味わっていただけます。

広大な齋宮跡会場におこなう「いつきのみや十五夜観月会」にぜひご来場ください。今年の十五夜も美しい月夜でありますように願っています。



第12回 いつきのみや十五夜観月会

開催日時 平成24年9月30日(日)
午後5:30~8:30(予定)

いつきのみや歴史体験館

三重県多気郡明和町齋宮3046番地25
TEL.0596-52-3890 ホームページ <http://itukinomiya.ne.jp>

【入館料】無料 【開館時間】9:30~17:00
【休館日】月曜日(祝日の場合を除く)、祝日の翌日、年末年始
【交通案内】近鉄齋宮駅下車すぐ 伊勢自動車道玉城ICより約20分

斎王まつりの沿革

斎宮への想い

明治14年 永島雪江 乾 寛郎・北野信幸の3名が発起人となり、斎宮復興運動を開始する。
 明治36年 斎宮村村長榎谷定治郎を会長とし、乾 寛郎他7名が発起人となり古蹟に標石を建立。
 大正7年 舊蹟斎王宮と「名勝舊蹟天然記念物」として指定。同7月斎王宮の奉祀復興・遺蹟顕彰を内務大臣に「歎願書」を歎願。
 昭和4年 3月県が斎王の森の南端に「史蹟斎王宮址」の碑を建立。
 昭和8年 4月富士市の志土中村寅次郎が、「斎宮復趾会」を創設し、翌年12月に「祈斎殿」を造営した。
 寅次郎の血と汗による義舉に感激した村民有志の間に、本格的な斎王宮復祀運動を巻き起こす熱意が燃え上がった。

以上「郷土史」に見る斎王」より抜粋

まつりのあゆみ

第1回

昭和58年3月28日

地元婦人会(内山たね会長)を中心に、斎宮地区商工会協賛を得て、「斎王の森」で、実施する。



タイムカプセル



第2回

昭和59年6月17日

全国に類例のない貴重な文化遺産である国史跡「斎宮跡」の啓発に努めながら、有効な保存と活用を図り、地域の発展に寄与するため、総勢二〇〇名から成る王朝絵巻を再現する斎王群行を中心とした「斎王まつり」を行うことを目的に町内文化団体等14団体により斎王まつり実行委員会(木戸口真澄会長)が発足。鎮魂祭、行われる。みどりの少年隊、その他有志により発掘事務所から斎王の森まで、練り歩いた。6月10日の予定が悪天候の為延期したが、再び雨。5月27日 明和町花菖蒲会発足。

第3回

昭和60年6月9日

群行始まる。竹神社：斎宮駅：斎王の森 初代斎王役に村瀬多江子(竹川)さんが決まる。北野の凧展示 斎もち(一俵半・豆入り)が配られた。観客は約一〇〇〇人 バザー：商工会の綿菓子コーナーは、子供たちに大人気だった。



綿菓子コーナー



北野の斎王凧



第4回

昭和61年6月8日

第2代斎王役に中西彩佳(竹川)さんが決まる。記念品(木綿布)作成。アトラクションに有雨中の羯鼓踊り(雨天中止)・大淀の祇園囃子 皇學館大学の雅楽部出演する。



祇園囃子



皇學館大学雅楽部

まつりに携わった人

◎初代会長

斎王まつりへの讃歌

木戸口真澄



斎王まつりの黎明期・草創期に深く関わった一人として、三十年の星霜を経たことに感慨無量です。

「斎王さん」と崇敬の念と親愛の情を抱いて、また地元の住民として「文化の町づくり」「歴史の町づくり」の強い想いを何とかして表現したいと、有志が心を一つにして築き上げたのが「斎王まつり」であります。みんなが、浄財と知恵を出し合って、文字通り「手づくりのまつり」が発した訳ではありますが、全国への発信という気負いと情熱が共感を呼び、大きな輪となりました。

野花菖蒲(どんと花)の咲く六月、梅雨入りを控えた不安定な天候も、奇蹟的に好天に恵まれ、年々飛躍的發展を遂げて来ました。今一度原点に戻って、内容の充実したまつり、老幼男女が参加出来る「斎王まつり」へ進化させたいと思っています。

◎第二代会長

思い出

森島啓之

平成七年十一月三日に、財団法人 民族衣装文化普及協会により、第十六回民族衣装文化功労者表彰式が挙行され、協会名誉総裁三笠宮妃百合子殿下ご台臨のもと、女優の吉永小百合さんが「きもの文化芸術大賞」を、当「斎王まつり実行委員会」も栄える「伝統文化賞」を他の三名の方と受賞し、民族衣裳文化普及協会の水島恭愛会長より、それぞれ賞状を頂きました。他の三名の方は染織、刺繍、織物の第一人者の方々です。

ステージ上の表彰式の席では、女優の吉永小百合さんの隣の席でしたが、なにぶん、華やかな席ではありますが、厳肅な雰囲気の中での表彰式ですので、着席の時軽く会釈を交わしたくらいで、お話は出来ませんでした。受賞者を代表して吉永小百合さんが挨拶をされました。映画でおなじみの、艶のあるきれいな、可愛い声で、映画を通じての着物について話されたのを覚えています。

表彰式に出席する前に実行委員会の皆さんから、吉永小百合さんのサインを是非もらって来るよう強く頼まれていました。これが大変なプレッシャーでした。色紙やペンも用意して行きましたが、肝心のお願ひする機会がありません。祝賀の席での「斎王まつり」について話をする機会が有り、その時水島会長さんにお願ひしてもらって、吉永小百合さんに書いていただきました。吉永さんご自身が用意されていた筆でした。実行委員に顔向けが出来ると、ほっとしたのと、帰りが大切に持ち帰ったのを思い出します。

第5回

昭和62年6月7日

第3代齋王役に奥田有紀(金剛ヶ丘)さんが決まる。ボスター(子サイン)奥田氏)作成される。

坂本の獅子舞参加。

記念切手発売。

観客は約3,000人



坂本の獅子舞



第6回

昭和63年6月19日

第4代齋王役に鈴木真由美(北野)さんが決まる。

記念品(耳皿)発売。

観客約3,000人

参加文化団体18団体。

6月12日雨天の為19日に延期。



斎宮駅前

第7回

平成元年10月22日

6月1日齋王しようぶまつりにて、ミスしよぶが選ばれる。

8月30日~31日横浜博に参加。

第5代齋王役に大山由美子(大淀)さんが決まる。この年から齋王・女官役は、一般応募となる。

メイン会場が齋宮歴史博物館へ移る。

群行コース 竹神社:旧道:博物館:齋王の森

観客は約8,000人



第8回

平成2年6月10日

第6代齋王役に早水俊代(養川)さんが決まる。

記念品(ミニふうしき)作成。明和太鼓が参加。

7月横浜博まるごと三重号に参加。

8月24日大阪花博三重県デーで、まじりPR。

観客は約12,000人



大阪花博にて



第9回

平成3年6月8日

第7代齋王役に沢村真由美

(金剛団地)さんが決まる。

観客は約15,000人



まつりに携わった人

◎第三代会長

竹神社と齋王

東谷 泰明

竹神社というと現在、田参宮街道沿いに
こんもりとした神苑があり、入り口の「延
喜式内 竹神社」の石標を思い浮かべる人
が多い。齋王まつりは第1回から、この竹
神社と「齋王の森」をめぐって行われてきた。
「齋王の森」はその名の通り、従来から「み
やこ齋宮」の中心地と考えられ、神宮司庁
の管理する黒木の鳥居もある。
では何故竹神社を齋王まつりは大切に思
い、竹神社出発の齋王群行を行ってきたの
か。それは地域齋宮の祭りだから「齋宮」総
社の竹神社出発になったのだと、他地域の
方から見えないかもしれないが、実はもっと
重要なことがある。それは、齋王まつりは
鎮魂から始まったからだ。

いまも齋王まつりは「竹神社」での祈り
の儀式から始まる。土曜日の朝8時に「齋
宮、齋王」にかかわったすべての人々への鎮
魂」の願いを、実行委員一同心を込めて行っ
ている。実は当初から齋王まつりは、「この「歴
史への鎮魂」の儀式をもっとも重要視してき
た。まだ齋王の森を主会場にしていた頃、「鎮
魂祭」途中に雨が降り出し、何とかそれだけ
は終了できたことがあり、実行委員たちは
「鎮魂祭」が終わればもうそれで「齋王まつ
り」は終わったことになると、「安心をした。
それくらい「歴史への鎮魂」への想いは強
いものであった。

竹神社への想いはまた「鎮魂」だけでは
ない。何となく、この地「竹神社」周辺と、
齋王、齋宮(歴史上の)とが親しげにつながっ
ているのではないかと、私、いや私たちは
おぼろげな感覚で思っていた。かつて齋王
まつりの役員たちは、第1回から会長をし
ていただいた木戸口真澄さんの瓦工場に集
まり、打ち合わせをしたり食事をしたりし
ていた。夜、工場の外で夜風にあたってい
るときなど、「ああ、ここがひよっとすると
齋王さんが居られた場所ではないか」と思っ
たことが幾度となくあった。それは齋王まつ
りで盛り上がりつつあったということもあるが、
土中からの声たちを私は聞いていたのかも
しれないと、今でも思っている。

現在発掘が進み、竹神社とその東方が平安
時代齋王様や女性の方々が生活をした場所
らしいということがわかってきている。特
に竹神社の社殿付近は、齋宮が最も栄えた
時代の「齋王さま居館」跡であると、私は
推測している。歴史はなんと素晴らしい贈
り物を私たちに残してくれているのだろう。
そして齋王まつりは30回を迎えて、「歴史へ
の鎮魂」の中心が「竹神社」(齋王様の居館)
であることがはっきりとしてきたことで、よ
り豊かな「齋王まつり」へと継続されてい
くことだろう。

齋宮跡の整備も進み、奈良古道の形が竹
神社北側に広々と姿を現してきている。「齋
宮」の風景や、人々の営みはこれからも刻々
と変化していくことだろう。だが、齋王まつ
りが続けてきた「歴史への鎮魂」の想いは「竹
神社」とともにすたれることはない。

第10回

平成4年6月
13～14日

第8代齋王役に村岡真由美(上村)さんが決まる。
第10回を記念して、齋王の森にて前夜祭始まる。記念品(湯のみ)作成。
「組曲・齋宮物語」作詞尾上たす枝 作曲長岡成貢にて完成。
2月19日 NHK「どんどんブラザ」(名古屋市)出演。
3月6日～7日鈴鹿「えじやないか三重」に参加。
観客は約20,000人



前夜祭

第11回

平成5年6月
5～6日

第9代齋王役に野村真紀(有雨中)さんが決まる。
ご神火起こし始まる。
葱華簪完成。
「齋王の舞」披露される。
9月11日「王朝ロマンフェスタ」に出演。
10月31日「全国育樹祭」に出演。
観客は約30,000人
11月3日三重県平成文化賞受賞。



王朝ロマンフェスタ



ご神火

まつりに携わった人
◎齋王まつり名誉会長 中井 幸充
明和町長
第30回齋王まつりを迎えて
国史跡「齋宮跡」の史跡指定は昭和54年3月、今年はその指定から33年目、漸く齋宮が「幻の宮」からその姿を現すべく、三重県によって史跡東部の整備が伊勢神宮の式年遷宮に併せて着々と進められています。
齋王まつりは、指定から3年後の昭和58年3月に地元婦人会の主催により産声を上げました。翌年には国史跡「齋宮跡」の啓発や史跡の保存と有効な活用を図り、地域の発展に寄与したいとの地元の皆さんの想いが重なり、王朝絵巻を再現する総勢200名からなる齋王群行をまつりの中心とする「齋王まつり」を企画、実行委員会が結成され、現在に至っております。
初めての齋王群行が、昭和60年に実施されて以降、平成4年からは前夜祭が、平成6年からは「齋王・禊の儀」がそれぞれ開始されました。また、平成7年からは群行出演者を町外からも一般公募することとなり、それに伴い応募者も日本全国に拡大、まつりの見物に訪れる方も増え、県下有数のまつりとして数えられるまでに成長いたしました。
また、全国的にその規模においても、文化財価値においても最大のスケールを持つ国史跡齋宮跡です。この文化的遺産の保存と整備・活用について、町も「齋宮跡を核とした町の活性化基本方針」をまとめたとともに、昨年からは手がけております歴史まちづくり法による歴史的風致維持向上計画の認定に向け取り組みを行っています。これまで手

が付けられなかった道路・排水整備や景観整備など、史跡内の環境整備を積極的に進めることとしています。

また、平成25年の伊勢神宮式年遷宮を最大のチャンスととらえ、「齋宮跡」を観光の拠点としてこの機会に、伊勢志摩の玄関口として、観光客が足を止める町を目指し、新たな観光資源を掘り起こし、育てていきたいと思えます。
齋王まつりの30回の開催に当たって、今まで係わっていただきました多くの実行委員会の皆さんや「齋王まつり」を盛り上げていただいた歴代の齋王さん、そしてその他の出演者の皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございます。

第12回

平成6年6月
18～19日

第10代齋王役に渡辺由香(池村)さんが決まる。
5月3日横浜国際仮装行列に参加。
2代目会長に森島啓之氏が、決まる。
会長を含めた本部役員・小委員会の正副委員長を改選する。
大淀地区業平公園にて、「禊の儀」行われる。
8月「フォトコン」の授与式・展示会を行う。(作品は、町文化祭にて展示)
8月世界祝祭博に参加。(伊勢市)
観客は約30,000人



横浜国際仮装行列



第13回

平成7年6月
3～4日

第11代齋王役に田端千恵(養村)さんが決まる。
見物客は約15,000人(荒天により)
民族衣装文化功労者表彰。(伝統文化賞)
初めて外国人が群行に参加し、国際交流を促進する。



二代目会長 森島啓之



世界祝祭博



をみなの祭り



知事訪問

第12代齋王役に羽野幸代(四日市市)さんが決まる。
10月をみな祭りの祭り(伊勢市)参加。
観客は約45,000人
北川三重県知(伊勢の国司役)で出演。

第14回

平成8年6月
1～2日

第15回

平成9年6月
7～8日

第13代齋王役に藤原慶子(名張市)さんが決まる。(町内外から募集。応募者78名)
4月「県民の日」イベントに参加。
10月御堂筋パレードで、「みえ歴史街道フェスタ」PR。
観客は約42,000人
原田副知事出演。



御堂筋パレード



第16回

平成10年6月
6～7日

第14代齋王役に大西尚代(伊勢市)さんが決まる。
3代目会長に、東谷泰明氏が決まる。
4月実行委員会事務所が、行政から独立。
7月1日大淀浜開きに参加。
11月「みえ歴史街道フェスタ」に実行委員有志参加。
観客は約40,000人。
アトラクションに、宮後子供木遣り参加。
田川教育長出演。



子供木遣り



まつり準備



三代目会長 東谷泰明



TVドラマ収録

第17回

平成11年6月
5～6日

第15代齋王役に垣内妥香(紀伊長島町)さんが決まる。
バザーに、61団体出店。
7月TVドラマ「齋王の葬列」に、出演。
10月「いつきのみや歴史館」オープンイベントに、参加。
ホームページ開設。
キャラクター(東谷元美)作成。
西場県議会議長出演。
見物客約40,000人。



TVドラマ収録

第18回

平成12年6月
4～5日

第16代齋王に山田ゆかり(津市)さんが決まる。
1月北野の凧揚げに参加。
いつきのみや歴史館にて参加者全員の中から選考会を行う。
体験館にてお立ち式を行う。
コース：体験館：齋王の森：竹神社：博物館。
祓を、前日に行う。
8月町納涼大会にて、「現代版齋宮」つたあわせ「フォトコンテスト(再開)の表彰を行う。
バザー出店65団体。
群馬県明和町バザー「アトラクション(八木節)参加。
上田副知事出演。
見物客約45,000人。
インターネットにより新キャラ(さいひめ)作成。



第19回

平成13年6月
3～4日

第17代齋王役に吉田恵美(津市)さんが決まる。
バザー物産展が、明和町特産品振興連絡協議会に移行する。
出店72団体。
イオン明和店ランドオープンに、出演。
9月「中部村おこし物産展」(岐阜)に、齋王参加
10月「第15回ニッポン全国むらおこし展(東京)に齋王参加。
見物客約48,000人。



イオン明和店オープン



大淀祇園祭り

第20回

平成14年6月
1～8日

第18代齋王役に辻井奈津希(中村)さんが決まる。
20回を記念、子供群行を行い齋王役に辻 麻佑(大淀小)ちゃんが決まる。
特別ゲストとして萩尾望都・田畑美穂・矢吹紫帆・矢中鷹光を招く。
「童女の舞」(千早夜20名)が花を添える。
祝賀会場にて、「ニ」群行行。

パンフレットを記念誌として発行。

群行コース変更 齋王の森：上蘭芝生広場：博物館
バザー出店95団体。

有爾中の羯鼓踊り参加。

職立の一部変更。(中学ボランティア部20名参加。)

記念品(扇子)を作成。

10月第16回「ニッポン全国むすおこし」展(東京)に齋王参加
見物客約53,000人

倭姫80周年記念行事参加
齋王一日消防署長。



特別ゲスト萩尾望都・矢吹紫帆・矢中鷹光



中学生ボランティア



子供齋王



千早踊り



ジャスコ日消防署長



倭姫

第21回

平成15年6月
7～8日

第19代齋王役に森岡 千景(桑名市)さんが決まる。

4代目会長北村 純一氏に決まる。

子ども齋王に北出理華ちゃん。

パンフレット取材旅行。

特別ゲスト 矢吹紫帆・矢中鷹光を招く。



四代目会長 北村純一



第22回

平成16年6月
5～6日

第20代齋王役に大西敬子(二見町)さんが選ばれる。

子ども齋王は中川あやなちゃん。

特別ゲスト 長岡成貢氏(いつきの舞)作曲家。明和町出身。

二日目の齋王群行・社頭の儀は雨のため中止となる。



第23回

平成17年6月
4～5日

第21代齋王役に田端乃里子(明和町大淀)さんが選ばれる。

子ども齋王は尾上詩織ちゃん。

特別ゲスト THIS

5代目代表 森下 清氏に決まる。

ステージが大がかりになり素敵にライトアップされる。



5代目代表 森下 清

第24回

平成18年6月
3～4日

第22代齋王役に稲葉友佳子(鈴鹿市)さんが選ばれる。

子ども齋王は西口玲央ちゃん。

特別ゲスト mix



第25回

平成19年6月
2～3日

第23代齋王役に安田有希(明和町)さんが選ばれる。
子ども齋王には早川佳那ちゃんが選ばれる。

特別ゲスト MAZISTAKO・STEIN(明和町出身)
前夜祭MCには第20代齋王役の大西敬子さんが務める。
(大西さんは齋王まつりを期にタレントとして活躍)



第26回

平成20年6月
7～8日

第24代齋王役に曾根理都子(伊勢市)さんが選ばれる。
子ども齋王に福井あゆみちゃんが選ばれる。
特別ゲスト 松阪商業高等学校 ギター部
禊の儀が大淀会場から齋宮会場に移される。



第25代齋王役に鳥井麻生(津市)さんが選ばれる。
子ども齋王に田所藍那ちゃんが選ばれる。

特別ゲスト たなかつとむ(三味線奏者)
国史跡齋宮跡指定30周年を記念して第一日目の朝、竹神社に齋王絵馬を奉納する。
また前夜祭開会式に子ども群行を行い、開会宣言を子ども齋王の田所藍那ちゃんが宣言する。
世界新体操選手権に出演。



第26代齋王役に、瀬田 萌(明和町)さんが選ばれる。
子ども齋王には、石川綾美ちゃん(開会宣言)が選ばれる。

特別ゲスト 剣山啓助(二胡演奏)
二日目群行到着後の「社頭の儀」では、
伊勢国司役に三重県知事の鈴木英敏氏、齋宮寮長官役に明和町長の
中井幸充氏がそれぞれ扮していただき豪華キャストとなる。



第29回

平成22年6月
4～5日

第27代齋王役に、竹内あずみ(明和町)さんが選ばれる。
子ども齋王には、市野音衣ちゃん(開会宣言)が選ばれる。

特別ゲスト カーボンパンチ
二日目群行到着後の「社頭の儀」では、
伊勢国司役に三重県知事の鈴木英敏氏、齋宮寮長官役に明和町長の
中井幸充氏がそれぞれ扮していただき豪華キャストとなる。



準備作業



図書の紹介

私達の「齋宮」について
より多くの方を知っていただくために
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例
◎ふるさと会館(図書館)で貸出可 ○ふるさと会館(図書館)で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の入門書として
谷口布有緒文 里中満智子画『齋王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆
中野イツ著『齋宮物語』明和町◎☆
山川修司著『語り部の竹の齋王語り』近代文芸社◎☆
榎村寛之著『伊勢齋宮と齋王』塙書房☆

郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に
奥井宏忠著『別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮』光書房◎◇
明和町教育委員会編『郷土史に見る齋王』◎◇
三重の文化財と自然を守る会編『伊勢齋王宮の歴史と保存』◎◇
『同II』◇

齋王二行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に
田畑美穂著『齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―』中日新聞本社◎◇
村井康彦監修『齋王の道』向陽書房◎☆
内田康夫著『齋王の葬列』角川書店◎◇

「齋王」を小説で読んでみたい方に
池田美由喜著『驚草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇
郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇
々々 『伊勢齋王の恋』近代文芸社◎◇
々々 『哀しみの伊勢大来齋王』近代文芸社◎◇

「齋宮」や「齋王」について考えてみたい方に
津田由伎子著『齋王』学生社◎◇
山中智恵子著『齋宮女御御子女王―歌と生涯―』大和書房◎◇
々々 『齋宮志』大和書房◎◇
々々 『続齋宮志』砂子屋書房◎◇
々々 『齋宮簡記』砂子屋書房◎◇
所京子著『齋王和歌文学の史的探究』国書刊行会◎◇
々々 『齋王の歴史と文学』国書刊行会◎◇
榎村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇
中川ただもと著『齋宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆
服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

第29回(平成23年度)齋王まつり実行委員会活動

- 1月 16日(日) 視察研修(向日市・長岡京市)21人参加
- 18日(火) 会計監査
衣裳貸し出し(いつきのみや)
- 22日(土) 役員会
- 30日(日) 実行委員会総会
- 2月 5日(土) 小町の会との会合(本部)
- 10日(木) 出演者募集締切
- 17日(木) 役員会(出演者書類選考)
- 22日(火) 総務・財務班会議
- 27日(日) 「梅まつり」協賛(齋宮歴史博物館)
- 3月 2日(水) 実施班会議
- 4日(金) 役員会(選考会について)
- 6日(日) 子供説明会(子ども齋王抽選 中央公民館)
- 10日(木) 齋宮小3年社会見学訪問(まつりについて80名)
- 13日(日) 齋王役選考会(いつきのみや歴史体験館)
- 14日(月) 中日 伊勢志摩ホームニュース 取材 事務局対応
- 16日(水) 広報班会議
- 18日(金) 東海経済ニュース 齋王役竹内さんインタビュー事務所にて
- 19日(土) ざいしょ市参加(イオン明和ショッピングセンター 着付け体験)
- 30日(水) アトラクション出演者応募締切
- 4月 6日(水) 広報班会議
- 13日(水) 広報班会議
- 14日(金) 広報班会議・齋王市会議
- 19日(火) アトラクション出演者会議
- 22日(金) 全体会議
- 24日(日) ステージ現場確認(実施班)
- 5月 8日(日) 子ども説明会・竹きり・看板・ステージ道具準備
- 15日(日) 出演者説明会・看板のぼり準備
- 19日(木) アトラクション出演者最終会議
- 22日(日) のぼり立て・ステージ作り
- 24日(火) 知事表敬訪問・FM三重出演(齋王役・竹内あずみ)観光連盟訪問挨拶
- 27日(金) 最終全体会議・三重テレビ出演(齋王役・竹内あずみ)
- 29日(日) ステージ作り・PTA他出演者説明会
- 31日(火) NHKほっとイブニング出演(齋王役・竹内あずみ、事務局)
- 6月 4日(土) 前夜祭
- 5日(日) 齋王まつり
- 12日(日) 後片付け
- 16日(木) 役員会(反省会)
- 7月 15日(金) フォトコンテスト応募締め切り
- 19日(火) フォトコンテスト1次審査
- 21日(木) 役員会(フォトコンテスト入賞・入賞作品選考)
- 応募者84名応募作品218点
- 8月 7日(日) フォトコン入賞者表彰式(齋宮歴史博物館)
- 後 第29回齋王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展(齋宮歴史博物館にて)31日(水)まで
- 9月 1日(木) フォトコンテスト入賞・入選作品
撤去後 明和町郵便局 展示(9月30日迄)
- 5日(月) 役員会(第30回にむけての話し合い)
- 9日(金) 臨時総会
- 12日(月) 「いつきのみや十五夜観月会」
協力(齋王役・竹内あずみ)着付け班協力
- 10月14日(金) 役員会(第30回齋王まつりについて)
- 17日(月) フォトコンテスト入賞・入選作品展示
百五銀行齋宮支店(11月30日迄)
- 22日(土) 「浪漫まつり」
協力(齋王役・竹内あずみ 女官役・2名)
- 28日(金) 役員会(第30回齋王まつりについて)
- 11月 5日(土) おかげ横町「きものまつり」 十二単装着実演
- 13日(日) 明星「古道まつり」 協力 ミニ齋王群行(齋王役・竹内あずみ 女官役・3名)
- 18日(金) 衣裳片付け
- 12月 1日(木) 齋王群行 出演者 募集開始
- 9日(金) 役員会
- 26日(月) 事務所仕事納め

第30回(平成24年度)齋王まつり実行委員会組織体制

役職名	代表	副代表	副代表	副代表	事務局	名誉会長(町長)	顧問	相談役
本部	森下 清 菅川 浩 (まつり実施班担当)	田中 貢 (総務・財務班担当)	岩佐 康則 (会場・着付・広報班担当)	山中 いずみ	朝倉 惟夫	中井 幸充	木戸口 眞澄 辻 正信	辻 孝雄 西川 道子
会計監事	久世 晃	渡邊 幸宏	橋本 久雄	東谷 泰明	森島 啓之	西場 信行	浜井 初男	北村 純一
			池山 マチ	山川 充造			東谷 泰明	森島 啓之

小委員会名	任務分担の内容	構成する委員の氏名
総務・財務班	総務の実施 財務の実施 グッズ販売・スタンプラリー等 齋王市の実施	◎森田 均 ○西村 直克 ○竹内 克巳 大西 俊次郎 辻 孝雄 中川 裕正 八田 秀穂 堀木 茂生 森島 啓之 森西 捨巳 田中 真司
会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎東谷泰明 ○北川 和樹 石田 豊喜 澤 恒一 中瀬 正実 橋本 久雄
着付班	着付け準備と後片付け	◎新田一子 ○清水 清子 ○田中 政子 ○西宮 幸代 衣斐 喜代美 榎本 英子 菊矢 照子 安井 澄代 夏井 ちはる 西川 美代子 服部 益子 森 洋子 竹内 喜子 今西 明美 新谷 千恵子 西谷 泰介 佐部利 好 中村 真朱美 鈴木 保子
まつり実施班	前夜祭の実施 祓の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 トラクションの実施	◎関岡武夫 ○北岡 泰 ○北村 哲也 ○土井 祐治 ○西山 浩一 ○早川 潤一 ○森菜 津子 ○八田 明美 石田 藤生 伊串 金市 亀村 定雄 北山 房夫 小林 邦久 小林 邦久 佐々木 久夫 東谷 泰介 中西 修一 中村 好富 西岡 信行 長谷川 新 永島 せい子 辻 満寿美 中島 宏 市野 秀世 秋山 修一
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理 内山 克巳

群行衣裳



長奉送使【ちょうぶそうし】



監送使ともいう。齋王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。



検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

齋王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは齋宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する齋王も多く、「源氏物語」「伊勢物語」など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に袷を重ね、打衣、表着の上にはベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、袷、単となっています。唐衣は袷、袷合わせがなく、上からはおりません。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の袷仕立てです。打衣は碇で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。袷は、內衣の意味で、垂領、広袖の袷仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は袷と同形ですが、裾、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

13番 日陰の糸 又は玉かずら

1. 垂髪
2. 唐衣
3. 表着
4. 打衣
5. 衣（袷）（枚数を重ねている）
6. 単
7. 長袴
8. 裳（全体）
9. 裳の小腰
10. 裳の引腰
11. 櫛扇（柏扇）
12. 帖紙
13. 日陰の糸（玉かずら）

※齋王が付けていたかどうかは定かではありません。



には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



れ、貞観・延喜式制に継承されているが、その後次第に増員され、長元八年（二〇三五）の『看督長見不注進状』（平遣）五二九（三七）では左右合わせて十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を摺伏するという信仰を生み、『徒然草』二〇三には主上御惱の時、五条の天神に看督長の鞞をかけることが見え、『神道名目類聚抄』には守門の神を看督長と称したとある。

1. 冠
2. 綾
3. 太刀



2番 綾

隨身【ずいしん】

隨身とは、貴族が外出する際に警護にあたった近衛府の官人を指します。それには高い教養と優美な美貌が求められたと云います。



齋王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

駕輿丁【かちよう】

内侍または命婦【ないしまたはみょうぶ】

齋宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。



女別当【にょべつとう】

内侍や官旨が、齋王の住むエリアで公的性質をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、齋王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。



乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、齋宮には、齋王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にようじゆ】

「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。



采女【うねめ】

都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、齋宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。



童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で齋宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が齋宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということとはなかったようです。



齋王フォトコンテスト

齋王賞



「王女の微笑み」 明和町 藤川 洋子



町長賞



「子ども齋王」 明和町 岡田 清志

明和町教育長賞



「群行出発」 松阪市 阿部 道男

齋宮歴史博物館長賞



「夢の旅立ち」 明和町 西岡 育生

特別賞



「裨の儀 花菖蒲の飛沫」 鈴鹿市 外海 善直

特別賞



「女孺と揃って」 鈴鹿市 松本 佳治

特別賞



「笑顔」 名張市 新才 修

特別賞



「華麗な前夜」 志摩市 松井 文郎

特別賞



「童女にひかれて」 津市 山本 艶子

明和町議会議長賞



「微笑む」 伊勢市 井村 義次

フォトコンテスト

◆サイズ

・カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆応募締め切り

・平成24年7月13日(金)当日消印有効
(郵送中の事故・破損については責任を負いかねます。)

◆応募方法

・応募票を作品裏面に貼付、郵送または齋王まつり事務局受付。

◆応募上の注意事項

・応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人3点以内(未発表の作品)に限ります。
・応募票の各項目に楷書で記入し、題名・お名前にはかならずフリガナをつけてください。
(複数応募の場合はコピーしてください。)

・入賞、入選作品については、あらかじめデータをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

◆賞

・入賞は、10賞(齋王賞ほか)、入選は10作品

◆選考方法

・作品は齋王まつり実行委員会で選考いたします。

◆発表

・8月6日前後に入賞者には直接通知いたします。

◆応募先

齋王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

三重県多気郡明和町齋宮2811番地
齋王まつり実行委員会事務局

電話 005599615522170207544
FAX 005599615522170207544



第27代齋王役
竹内 あずみ

齋王役を務めて

「いにしへのロマンのまち、明和町」私は十二単を身に纏ったときに、その歴史の重さと深さを、改めて感じました。

天皇の名代として伊勢神宮に仕えた未婚の皇女、齋王。その小さな体に、どのように、誇り、責任、不安、別れの哀しみを抱えていたのでしょうか。本番当日、衣裳を身に纏い、想いを巡らせていました。しかし、実際に禊の儀や出發式を行い、葱華輦そうかべんの中から青々とした芝生や色鮮やかな平安装束を纏う方々見ていると、「綺麗やなあ」と素直に感じている自分に気がきました。齋王も、様々な気持ちを抱える一方で、私と同じように、ふとしたことで気持ちを穏やかに保っていたのではないのでしょうか。そう考えたとき、私が齋王の気持ちに近付いたようで、とても嬉しかったです。

小さい頃から憧れていた齋王役を、本当に務めることができたのは、私一人の力だけではなく、齋王まつり実行委員会の皆さまを始め、地域の皆さまの暖かい声援や、家族の支えなど、たくさんの方々のご支援によるものであり、そのことに心より御礼申し上げます。

そして、記念すべき第三十回齋王まつりが、更なる盛り上がりとなることを心から祈っております。



子ども齋王
市野 音衣

子ども齋王を務めて

自分が住んでいる町のお祭りでも、大役をできてうれしかったです。

みそぎのぎや群行のときは、きちょうしたけれど、知っている人が声をかけてくれたときは、うれしかったです。

私にとってすてきな思い出になりました。

大人になってもいろんな役をしたいと思います。



葱華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

一三〇〇年の祈り

齋王まつり実行委員会 森 下 清

今年の齋王まつりは「一三〇〇年の祈り」というサブタイトルを掲げて行います。

昨年は、東日本大震災が起こりたくさんの方が犠牲になったり被災され、今でも大変な生活をされています。さらに、原発による放射線や、がれきの処理など復興を阻むたくさんの問題をかかえています。

齋王は三三〇〇年余り前、明日香からこの地へ「大来皇女」が天皇の名代として遣わされて以来、六百年間日本の平和を祈り続けてきました。

今も、齋王がこの地「いつきのみや」で、日本の平和を祈り続けてくれていると思っています。

今年三十回を迎える齋王まつりは、その齋王の祈りを全国に届けるまつりにしたいと思っています。

齋王まつり実行委員会は、みなさんのご支援ご協力をいただいで、第三十回節目のまつりを今まで以上に盛大で、雅な「まつり」をめざしてがんばっています。

いつきのみやに、初夏の風が吹き、野花菖蒲の花が咲き誇る季節、幻の宮「いつきのみや」へ、齋王まつりにぜひお越し下さい。



主催 / 齋王まつり実行委員会

後援◎明和町、明和町教育委員会、中部運輸局三重運輸支局、齋宮歴史博物館、(財)国史跡齋宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、明和町観光協会、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)

問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274